



平成23年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成22年8月10日

上場会社名 株式会社シーマ 上場取引所 JQ
 コード番号 7638 URL <http://www.cima-ir.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 白石 幸栄 (TEL) 03(3567)8098
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 総務部長 (氏名) 松橋 英一
 四半期報告書提出予定日 平成22年8月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第1四半期の連結業績（平成22年4月1日～平成22年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第1四半期	2,590	△1.9	16	—	16	—	6	—
22年3月期第1四半期	2,639	△2.3	△154	—	△162	—	△219	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第1四半期	0.04	—
22年3月期第1四半期	△1.19	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第1四半期	9,076	5,613	61.8	30.55
22年3月期	9,323	5,607	60.1	30.51

(参考) 自己資本 23年3月期第1四半期 5,613百万円 22年3月期 5,607百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
23年3月期	—				
23年3月期(予想)		0.00	—	1.00	1.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無：無

3. 平成23年3月期の連結業績予想（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、第2四半期（累計）は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	5,654	△0.1	156	—	143	—	74	—	0.40
通期	11,718	2.3	634	154.3	608	171.5	316	—	1.72

(注) 当四半期における業績予想の修正有無：無

4. その他（詳細は、〔添付資料〕P. 5「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動：無

(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用：有

(注) 簡便な会計処理および四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更：有

② ①以外の変更：無

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

23年3月期1Q	183,765,644株	22年3月期	183,765,644株
② 期末自己株式数	735株	22年3月期	725株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	183,764,918株	22年3月期1Q	183,764,972株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法にもとづく四半期報告書のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法にもとづく四半期報告書のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項などについては、四半期決算短信〔添付書類〕P. 4「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. その他の情報	5
(1) 重要な子会社の異動の概要	5
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	5
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) セグメント情報	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間（平成22年4月1日～平成22年6月30日）におけるわが国経済は、アジアを中心とした世界経済の回復に伴う輸出と生産の増加や企業収益の改善、また政府による各種景気刺激策などを背景に、個人消費に持ち直しの動きがみられ、国内景気が着実に回復基調にあるものの、依然として雇用・所得環境の厳しさが続き、消費マインドは低調に推移しました。

また、景気の先行きについては、欧州を中心とした海外景気の下振れ懸念や金融資本市場の変動、円高やデフレーションの進行など、景気を下押しするリスクが未だ存在するなど、国内景気の本格回復には時間を要するものと見込まれます。

このような経済状況のもと、当社の主力事業のあるブライダルジュエリー市場は、一昨々年の世界的な金融危機の影響や、婚姻件数の減少に伴う市場の縮小の影響などもあり、企業間競争が激化するなど、厳しい状況が続きました。

当社は、以下に記す施策などによる売上増に努めるとともに、経費削減の徹底、業務改善の推進に引き続き全社で取り組みました。

その結果として、当第1四半期連結会計期間における当社グループ（当社および連結子会社）の連結業績は、売上高25億90百万円（前年同四半期比1.9%減）、営業利益16百万円（前年同四半期は営業損失1億54百万円）、経常利益16百万円（前年同四半期は経常損失1億62百万円）、四半期純利益6百万円（前年同四半期は四半期純損失2億1百万円）と利益改善することができました。

なお、連結売上高が前年同四半期比で減少した要因は、前期に連結子会社を売却したことによるものです。

前期より全国で本格的に実施した営業強化策が功を奏し、集客数増に大きく寄与しましたが、お客様の平均購入単価が依然として低下傾向にあることなどにより、ブライダルジュエリー販売を主力とする当社（銀座ダイヤモンドシライシ、エクセルコダイヤモンド、ホワイトベルの3ブランド等）の個別業績は、売上高25億90百万円（前年同四半期比0.7%増）と対前期比で微増にとどまり、営業利益17百万円（前年同四半期は営業損失1億47百万円）となりました。

また、当第1四半期連結会計期間の売上総利益率は67.5%となり、高い水準を維持しました。

なお、当第1四半期連結会計期間における主な施策などは、以下のとおりです。

1) 新店舗開設

5月29日 「銀座ダイヤモンドシライシ梅田店」を開設。

同店舗の売上は、開設当初より好調に推移しました。

2) 商品力強化

当第1四半期連結会計期間に、以下の新商品を発表しました。

(銀座ダイヤモンドシライシ)

- ・4月 オリジナルマリッジリングシリーズ“スパイラル”に新モデルを追加。

(ホワイトベル)

- ・5月 新作オリジナルマリッジリング“Presso (プレzzo)”を発表。
- ・5月 オリジナルマリッジリングシリーズ“Symphonia (シンフォニア)”に新モデルを追加。

3) 提携先ホテル・式場数の増大と提携関係のさらなる強化を推進

4) 集客力強化

新たな集客チャネルの開拓を推進するとともに、独自のノウハウをもとに前期より本格稼動した集客活動を全国各地で実施し、売上に寄与してきました。

5) ギフト販売の活動

積極的な営業活動により提携先数は増加しましたが、売上は前年同期と比較して、ほぼ横ばいに推移しました。

6) ティアラ・レンタルサービスの好調な伸び

ドレスショップなどの提携先企業数の増加に伴い、ティアラ在庫数を増強したため、売上は前年同期と比較して、約4割増と大幅に増加しました。

また、ブランド別の売上、販売・サービス別の売上は、以下のとおりです。

①ブランド別売上高

セグメントの名称	ブランドの名称など	当第1四半期連結会計期間(千円) (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	前年同四半期比 (%)	構成比(%)
ブライダルジュエリー事業	銀座ダイヤモンドシライシ	1,565,023	103.2	60.4
	エクセルコダイヤモンド	854,069	95.5	33.0
	ホホワイトベル	153,615	99.3	5.9
	その他(注)2	18,019	209.1	0.7
合 計		2,590,728	98.1	100.0

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれていません。

2. ブライダルジュエリー事業の「その他」は、商品部門売上など本社関連の売上となっています。

②販売・サービス別売上高

セグメントの名称	販売・サービスの名称など	当第1四半期連結会計期間(千円) (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	前年同四半期比 (%)	構成比(%)
ブライダルジュエリー事業	ブライダルジュエリー販売	2,410,240	98.7	93.0
	ファッションジュエリー販売	96,086	157.8	3.7
	ギフト販売	46,306	96.6	1.8
	ウエディング送客サービス	14,080	119.9	0.6
	その他(注)2	24,014	215.5	0.9
合 計		2,590,728	98.1	100.0

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれていません。

2. ブライダルジュエリー事業の「その他」は、ティアラ・レンタルサービスなどの売上となっています。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債、純資産の状況

(資産の部)

流動資産は、納税により現金及び預金が減少したことや、受取手形及び売掛金、商品及び製品の減少などにより、前連結会計年度末に比べて2億45百万円減少して60億27百万円となりました。また、固定資産は、新店の建設協力金・工事負担金の発生により長期貸付金や長期前払費用が増加したものの、償却により有形固定資産が減少したため、前連結会計年度末とほぼ変わらず、30億49百万円となりました。この結果、当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて2億46百万円減少し、90億76百万円となりました。

(負債の部)

流動負債は、さらなる在庫管理の適正化により仕入を控えたため、支払手形及び買掛金が減少したことや、また、納税により未払法人税が1億57百万円減少したため、前連結会計年度末に比べて1億81百万円減少して29億93百万円となりました。固定負債は、返済により長期借入金が増加したため、前連結会計年度末に比べて71百万円減少し、4億69百万円となりました。この結果、当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて2億52百万円減少し、34億62百万円となりました。

(純資産の部)

純資産合計は、利益剰余金が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べて6百万円増加し、56億13百万円となりました。

結果として、自己資本比率は61.8%となり、当第1四半期連結会計期間末の1株当たり純資産額は30円55銭となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間における現金及び現金同等物の四半期末残高は6億67百万円となり、前連結会計年度末に比べて1億円減少しました。各キャッシュ・フローの状況と要因は、以下のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、全社的に経費削減を徹底したことにより、原材料又は商品の仕入れによる支出が8億83百万円(前年同四半期比10.0%減)、人件費の支出が6億8百万円(同12.4%減)、その他の営業支出が11億20百万円(同7.9%減)と減少したことなどにより、43百万円の収入(前年同四半期は2億82百万円の支出)となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、45百万円の支出(前年同四半期比67.6%減)となりました。主に新規出店費用などの有形固定資産の取得による支出が30百万円(同78.7%減)と減少した結果です。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、98百万円の支出(前年同四半期は1億31百万円の収入)となりました。長期・短期とも、新規の借入れを行わなかったためです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループを取り巻く主な事業環境であるブライダルジュエリー市場は、企業間競争の激化と国内景気の低迷などにより、今後も厳しさが予想されます。

当社では、少子化・晩婚化や顧客ニーズの変化などにより将来縮小傾向にある市場を見据え、厳しい事業環境で勝ち残れる企業体質にすべく、事業基盤を強化するとともに、収益力の拡大をはかり、業界での地位を確固たるものにしていきます。

当社グループの当連結会計年度(平成22年4月1日～平成23年3月31日)における業績は、ダイヤモンドをコアとした独自のビジネスモデルの優位性や業界における先駆的な施策などにより、予想に対し堅調に推移するものと見込んでいます。

当社グループでは、これらの状況を踏まえて、コア事業であるブライダルジュエリー事業を中心に、当社が提供する各サービスの特長を最大限に生かした販売促進・広告宣伝活動を行うとともに、社員教育の充実による質の高いサービスを提供し、顧客満足度の一層の向上を目指します。

その他、上記以外の新規事業、M&Aも含めた新たな収益基盤の構築も機動的に検討していきます。

以上により、当社は、ブライダルジュエリー業界における優位性をさらに強化し、収益の最大化に努めます。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

1. 簡便な会計処理

(固定資産の減価償却費の算定方法)

定率法を採用している固定資産については、連結会計年度にかかる減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっています。

2. 特有の会計処理

該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

・会計処理基準に関する事項の変更

「資産除去債務に関する会計基準」の適用

当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)および「資産除去債務に関する企業基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しています。

これによる営業利益、経常利益および税金等調整前四半期純利益に与える影響はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	667,664	767,834
受取手形及び売掛金	364,682	420,282
商品及び製品	4,612,764	4,688,377
原材料及び貯蔵品	123,820	123,408
前払費用	127,881	102,375
繰延税金資産	133,372	146,529
その他	15,336	44,520
貸倒引当金	△18,286	△20,609
流動資産合計	6,027,236	6,272,718
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備 (純額)	791,148	823,267
車両運搬具 (純額)	145	165
工具、器具及び備品 (純額)	948,201	934,975
建設仮勘定	4,793	1,378
有形固定資産合計	1,744,288	1,759,787
無形固定資産		
ソフトウェア	39,167	37,464
電話加入権	4,932	4,932
無形固定資産合計	44,100	42,396
投資その他の資産		
長期前払費用	44,235	39,019
敷金及び保証金	1,099,067	1,105,244
繰延税金資産	103,674	101,586
その他	14,238	2,377
投資その他の資産合計	1,261,215	1,248,226
固定資産合計	3,049,604	3,050,410
資産合計	9,076,841	9,323,129

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	266,656	349,027
短期借入金	1,615,028	1,625,028
1年内返済予定の長期借入金	307,748	316,048
未払金及び未払費用	381,857	372,005
未払法人税等	18,533	175,830
前受金	200,690	179,672
その他	203,453	157,814
流動負債合計	2,993,966	3,175,427
固定負債		
長期借入金	194,928	265,872
退職給付引当金	196,038	187,930
長期未払金	78,061	86,676
固定負債合計	469,027	540,479
負債合計	3,462,994	3,715,907
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,777,743	1,777,743
資本剰余金	1,536,643	1,536,643
利益剰余金	2,297,451	2,290,714
自己株式	△72	△72
株主資本合計	5,611,765	5,605,028
評価・換算差額等		
為替換算調整勘定	2,081	2,194
評価・換算差額等合計	2,081	2,194
純資産合計	5,613,847	5,607,222
負債純資産合計	9,076,841	9,323,129

(2) 四半期連結損益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
売上高	2,639,834	2,590,728
売上原価	859,021	840,869
売上総利益	1,780,813	1,749,859
販売費及び一般管理費	1,934,946	1,733,110
営業利益又は営業損失(△)	△154,132	16,748
営業外収益		
受取利息	0	73
為替差益	—	6,778
その他	456	324
営業外収益合計	456	7,176
営業外費用		
支払利息	8,614	7,620
為替差損	662	—
その他	4	—
営業外費用合計	9,281	7,620
経常利益又は経常損失(△)	△162,957	16,304
特別利益		
貸倒引当金戻入額	1,334	2,323
不正事故損失回収益	—	10,734
特別利益合計	1,334	13,057
特別損失		
過年度退職給付費用	67,832	—
特別損失合計	67,832	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△229,456	29,361
法人税、住民税及び事業税	8,028	11,638
法人税等調整額	△17,966	11,068
法人税等合計	△9,938	22,706
少数株主損益調整前四半期純利益	—	6,655
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△219,517	6,655

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
営業収入	2,789,457	2,783,774
原材料又は商品の仕入れによる支出	△982,666	△883,961
人件費の支出	△695,033	△608,594
その他の営業支出	△1,216,270	△1,120,383
小計	△104,513	170,834
利息及び配当金の受取額	0	—
利息の支払額	△8,777	△7,666
その他の収入	456	41,435
その他の支出	△4	△2
法人税等の支払額	△170,159	△161,543
営業活動によるキャッシュ・フロー	△282,998	43,058
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△141,111	△30,023
無形固定資産の取得による支出	△9,324	△5,009
敷金及び保証金の差入による支出	△1,242	△1,320
敷金及び保証金の回収による収入	12,692	6,447
短期貸付けによる支出	—	△2,373
建設協力金の支払による支出	—	△12,500
建設協力金の回収による収入	—	420
その他の支出	—	△720
その他の収入	24	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△138,960	△45,078
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	100,000	—
短期借入金の返済による支出	△14	△10,000
長期借入れによる収入	250,000	—
長期借入金の返済による支出	△58,747	△87,859
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△159,987	△275
財務活動によるキャッシュ・フロー	131,250	△98,135
現金及び現金同等物に係る換算差額	75	△13
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△290,631	△100,169
現金及び現金同等物の期首残高	905,426	767,834
現金及び現金同等物の四半期末残高	614,794	667,664

- (4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前第1四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）

	ブライダル ジュエリー事業 (千円)	ウェディング プロデュース事業 (千円)	計 (千円)	消去または全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	2,573,598	66,236	2,639,834	—	2,639,834
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	333	194	528	△528	—
計	2,573,932	66,430	2,640,363	△528	2,639,834
営業利益又は営業損失(△)	△148,764	△5,367	△154,132	—	△154,132

(注) 1. 事業区分の方法

事業は、商品の系列および市場の類似性を考慮して区分しています。

2. 各区分に属する主要なブランド

事業区分	主要ブランドなど
ブライダルジュエリー事業	銀座ダイヤモンドシライシ、エクセルコダイヤモンド、ホワイトベル
ウェディングプロデュース事業	オリーブの丘

3. 前第1四半期連結累計期間より、当社の退職給付債務の算定方法を簡便法から原則法に変更しています。これによるセグメント情報に与える影響は軽微です。

〔所在地別セグメント情報〕

前第1四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しています。

〔海外売上高〕

前第1四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）

海外売上高がないため該当事項はありません。

〔セグメント情報〕

当第1四半期連結累計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日）

当社グループは、ブライダルジュエリー事業の単一セグメントであるため、記載を省略しています。

(追加情報)

当第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）および「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しています。

- (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。